未来予想図（みらいよそうず）

寝屋川市立梅が丘小学校　　２０２３・１０・６

校長室通信　　No. ２８

保護者の皆様へ

混沌の中に
光を求めて・・・（その3）

前号からの続きです。

＜生きる決意＞

未熟な母ゆえに、子どもの未来も希望も、すべてを断ち切ってしまうところでしたが、娘の一言で自分の行為の愚かさに気づかせてもらいました。そして、これからは子どもたちを立派に育てようと思いました。志を高く持ち、警察官という職に殉じた夫を、私は自分の身勝手さからおとしめるところでした。

しかし、長女からもらった笑顔に向かって生きていく決心をしたものの、なかなか笑うことができませんでした。鏡の前で笑う練習をしてみるものの難しい・・・。

そんな中で、自分のこれからの人生、何か人の役に立つことをしたいと考えましたが、そのとき、私の前には高校中退であるという厳しい現実が横たわりました。

家庭の事情により、私は高校を中退しましたが、逆に、高校も出ていないというコンプレックスは、私の原動力になりました。

「高校から始めよう。そして教師になろう。」と決意したのは、秋も終わり、冬の足音がそこまで来ている頃でした。

署長に、教師になることを申し上げて賛成をしていただいた後、すぐに準備に取り掛かりました。実家の母と妹に子どもたちを預けて、次の年から夜間の定時制高校の3年生に籍を置き、2年間学びました。

定時制高校は卒業まで4年間ですが、私は高校3年生の秋に中退していたので、卒業まで残りの2年間が必要だったのです。

本当は歴史の勉強をしたかったのですが、最短距離で就職しなければなりませんでした。実家への仕送りや私の生活費、学費などで、夫の一時金はすぐに底をついてしまうからです。

大阪府が昭和43年度から全校に養護教諭を配置することを教えていただき、養護教諭養成の短大への入学を考えました。クラスメートは皆18歳で、私は25歳。遅い大学生になりました。

そして2年後に卒業して、大阪府の夏の採用試験を受けましたが、落ちてしまいました。

その後、秋の採用試験に挑戦したところ、幸運にも合格できたのです。

大学を卒業後、実家に預けていた子どもたちを呼び寄せましたが、そのころには夫のお金をすべて使い果たし、私の給料のみの生活でした。養護教諭としての最初の赴任校は、寝屋川市立第五小学校で、このときようやく親子3人での生活を始めることができたのです。

私は、子どもの成長に合わせて、寝屋川市立第六中学校、府立今宮工業高校を経て、大阪府の教育委員会事務局でお世話になりました。行政の仕事も経験し、その後、豊中市にある刀根山病院の病弱な子どもたちを預かる刀根山養護学校に管理職として赴任しました。

私は、阪大病院や関西医大などの院内に分教室を設置しつつ、病を持つ子どもたちの教育に携わってきました。小児がんや筋ジストロフィーなどの、行きたくても生きることの難しい運命の子どもたちと出会い、一日でも生きていて良かったと思える教育をすることで、「生きるとは？」という課題に向き合うことになりました。

6年間で18人の児童・生徒を失うことになりましたが、私は、深い悲しみをその親と共有する仕事を受け持ちました。そのときに私は、今の仕事をするために生きているのだ、生かされているのだと思ったのです。

しかし、一時はあきらめていた社会科の先生になりたい気持ちも抑えきれず、通信教育の大学に通い、社会科の教員免許を取得しました。仕事に役立つと思えば、何事にも挑戦するという欲張りな生き方をしてきました。

このようにして私は定年を迎えましたが、どの場面においても、周りの人に助けてもらった人生だったように思います。節目節目で、いろいろな方のご縁をいただいたお陰で、今の私があるように思います。

＜若い世代のために＞

教師も、警察官である皆様も、ともに税金から給料をもらう仕事です。民間人であれば許されることであっても、公務員ということで、常に厳しい目にさらされています。外に出ても、公務員という職を背負い、24時間、プライベートはないに等しく、裸の自分でいられるのは家庭だけであろうと思います。また、模範的な行動をいつも求められ、ストレスもたまることと思います。警察官である皆様は、高い志を持ち、死も視野に入れて府民の財産・安心・安全に心を砕いてお仕事をしていただいております。ときにはプライドが傷つくようなことや、我慢ならないと思うこともあるでしょう。しかし、崇高な精神だけは失わないでください。

警察官・消防隊員・自衛官・医者という職業の方々は、国民の命や財産を守ってくれています。日本は戦後民主主義の国となり、このような職業の方々に尊敬と敬意を払う風潮が薄れてきているように私は思います。

このような風潮が醸成してきた中には、自由や平等などの権利ばかりを主張するあまり、義務を果たすことを教えてこなかった私たち教育界にも責任があったのではないかと、教育を担う一員として思う今日この頃です。

国民の生命や財産、そして安全を守っている職業の方々が、もっと大切にされ、それなりの処遇を受けて、若い世代の憧れの職業になってほしいと思っています。

今、大阪府は財政難で、様々な面での立て直しが行われています。

「この職に就いて良かった。」

「僕たちもそんな職に就きたい。」

と思われる処遇をしていただきたいと思います。

そろそろ時間がまいりました。長時間のご清聴、誠にありがとうございました。

＜殉職警察官＞

寝屋川警察署　警部補　井上　雅巳（享年 36 歳）

昭和 38 年 7 月 4 日午後 1 時 10 分　交通違反取締中の自動車事故により殉職。

【概要】故 井上警部補は、国道 1 号において、交通取締用二輪自動車で機動取締中に、異常な速度で暴走する単車を発見。検挙すべく追跡するが、前を走っていた大型トラックが急停車したため、回避措置も及ばず、車両後部に激突。脳挫傷による脳内出血などにより殉職されたものである。

＜井上幸子氏＞

上記、井上　雅巳氏の妻。昭和 15 年、島根県生まれ。養護教諭として寝屋川市立第五小学校、第六中学校、府立今宮工業高校勤務を経て、大阪府教育委員会事務局へ。その後、刀根山養護学校校長等を歴任され、平成 20 年～23 年まで、寝屋川市教育委員会委員長として勤務。